

大丈夫か「Made in Japan」？

竜崎 崇和*

免震・制振オイルダンパーの製作会社 KYB のデータ改ざん事件が昨年（2018 年）大きな事件となったが、数年前にも同じような事件があったのを思い出す。東洋ゴム工業の免震ゴム装置のデータ改ざんである。ともに安全性を担保するはずの免震・制振装置への信頼を大きく損なう不祥事で、国民の不安は大きかった。その不安を打ち消すためか？ いずれの装置も、改ざんが明らかになった後に国交省が実施した調査で、「震度 7 程度の地震でも倒壊するおそれはなく、安全性に問題はない」と結論づけられた。しかし、企業モラルに対する批判は免れられない。「国民を欺き、不安をあおった。決して許される行為ではない」と専門家も指摘しているが、そのとおりである。

その他の会社でも、「改ざん、改ざんオンパレード」である。三菱自動車の燃費データ改ざん、日産、スバルでの検査員不正、神戸製鋼所、三菱マテリアルの子会社、東レの子会社でも起きた同様のデータ改ざん事例で、会社側から口をそろえて出てくるのは「安全性に問題はない」という言葉だ。さらに、東レの社長は「法令違反があった場合、安全上問題がある場合、社会的に影響を及ぼすおそれがある場合は対外公表する」との基準を示したうえで、今回の事案は、ネットへの書き込みとそれに対する問い合わせがあったことや、神戸製鋼など一連の不祥事がなければ、公表するつもりはなかったと述べている。信頼を裏切った責任をどうとるか述べて、この言い草は何なのか？

さらに、もっと恐ろしいことに（？）日本の政治でも、森友問題で日本のトップ省庁の財務省が文書改ざん、また厚生労働省の

* 東京都済生会中央病院腎臓内科

勤労統計不正調査問題と、すべてが嘘で固められたような気さえしてくる。日本が世界から得ていた信頼により形作られていた「Made in Japan」というブランド力が、今、根底から覆されている気がするのは私だけなのであろうか？

さて、われわれが従事している透析の分野ではどうであろうか？ Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study (DOPPS) では 1997～2001 年の第 1 期調査において、血液透析患者における死亡率が日欧米間で比較・検討された。1 年間の粗死亡率は、日本では 6.6 %，欧州 15.6 %，米国 21.7 % であった。圧倒的に日本の成績がよかったわけだ。腹膜透析においても腹膜炎感染率（今田ら¹⁾ 0.16 回/患者・年，2004 年アメリカ²⁾ 0.4 回/患者・年，同時期 0.23～0.29 の報告³⁾ もある）でよい成績を示していたが、現在行われている The Peritoneal Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study (P-DOPPS) 研究において現時点では他国と大差はない（アメリカ 0.26，日本 0.27，カナダ 0.28，オーストラリア・ニュージーランド 0.35，タイ 0.37，イギリス 0.40）。今田らの成績が、日本独自の臨床の効果を反映していたとは考えにくい。P-DOPPS の結果が「Made in Japan」ブランドの透析の世界での（でも？）崩壊ではないことを祈る。

文 献

- 1) 今田聰雄：CAPD 関連腹膜炎・出口部感染の 20 年の軌跡と最新情報。腎と透析 2006；61(腹膜透析 2006)：94-97
- 2) Kim, D. K., Yoo, T. H., Ryu, D. R., et al. : Changes in causative organisms and their antimicrobial susceptibilities in CAPD peritonitis : a single center's experience over one decade. Perit. Dial. Int. 2004；24：424-432
- 3) Li, P. K., Law, M. C., Chow, K. M., et al. : Comparison of clinical outcome and ease of handling in two double-bag systems in continuous ambulatory peritoneal dialysis : a prospective, randomized, controlled, multicenter study. Am. J. Kidney Dis. 2002；40：373-380